〈資料〉

三谷隆正の思想研究のために

── その著作と關聯・研究文獻書誌 ──

渡邉雅弘・編

本篇は編者編『日本西洋古典學文獻史』（文部省科学研究費補助金特定領域研究A，全４巻，３冊＋第４巻CD〔増補改訂〕版，平成13－26年。）に據る副産物である。（平成26年８月現在。）

三谷隆正（1899〔明治22〕. 2. 6－1944〔昭和19〕. 2. 17。享年56）：

神奈川縣の交易地、神奈川青木町（横濱市）出身。不遇の父に從ひ六歳の時、東京に轉居。一高名物教授（哲學）・岩元禎、一高校長・新渡戸稲造（國際人。讀書會に參加）、無教會キリスト者・内村鑑三（同窓新渡戸稲造の紹介により、聖書研究會・柏會に所屬）の三人に私淑して修養し、舊制高等學校の教授となる。教父アウグスティヌスに傾倒しつつも、無教會主義の福音信仰やヒルティ及びカント理想主義哲學で鍛錬された清廉高潔な人格、そしてそれを超えた愛他主義の教育者として、學生に廣く深い感化を與へた法哲學者。内村門下では、各聖書研究會の枠を超へて、畔上賢造、藤井武、高木八尺、南原繁、矢内原忠雄、江原萬里らと親交を結んだ。生來の「蒲柳の質」で、一高時代には「群鷄中の一鶴」（南原繁）と評せられ、純粋な學究肌でありながら「青年の教師」たることを生涯の使命、天職とし、終生大學に職を奉ずることがなかつた。明治學院普通部、第一高等學校を經て、1915（大正４）年、東京帝國大學法科大學（英法科）卒業後、（岡山）第六高等學校教授を皮切りに、第一高等學校囑託、教授として法制及びドイツ語などを講じた。1939（昭和14）年、靜岡高等學校校長を拝命したが、結核悪化の故を以て赴任せず、再び第一高等學校囑託となり、1942（昭和17）年、同職を辭任。

1944（昭和19）年２月17日、東京三鷹の自宅で歿す。喪主は妻三谷豐子（羽仁五郎の妹）。多磨墓地（東京）に埋葬。享年56。法哲學研究書の他、獨特の文體で廣く讀まれた著作には、輸入學問の「岩波（飜譯）文化」と概括されるやうな大正の哲學的文化教養規範に甘んじない「徹底愛他（神）主義」で「現在に徹する」實存と魂の平安を生きる『信仰の論理』（1926〔大正15〕年刊）及び『國家哲學』（1929〔昭和４〕年刊）、『アウグスチヌス』（1937〔昭和12〕年刊）、『幸福論』（1944〔昭和19〕年刊）などがある。『三谷隆正全集』全５巻（岩波書店，1965－66〔昭和40〕年刊）に集成。（全集に未収錄の論文はできる限り本篇に収載した。）

なほ、「瞼の母」の作家・長谷川伸は異父兄に、戰時下、宮城遙拝に抵抗し女子学院院長を務めた三谷民子は異母姉に、元侍從長・三谷隆信は實弟にあたる。民子、隆信もまたいづれも若き日より無教會主義の内村鑑三と交流があつた。

手堅い耆宿たるべき教育者、學究として社會的威信に守られた平穩無事、順風滿帆の知識階級、學歷エリート然とした人生どころか、「涙の谷」の重苦に呻きつつ主イエスの「輕き」軛に跪き、澄みきつた明るさと「生存の重さ」を魂に刻みつけて歩んだ人であつた。讀書を心の糧食とするどころか、「なぜ自分が?」と常に自分と向き合つて自問せざるをえないやうな、生涯病弱で健康に惠まれず、早く初婚の妻子を、そして愛甥・川西瑞夫をも喪ひ、妬みから蔭で「聖人」と揶揄されるといふ、神の氣まぐれかとも難じかねない波亂と飜弄、悲哀に耐へねばならない人であつた。痩身の白皙隆鼻の内に秘めた「デーモン」（根源的衝迫）のある人には、敢て十年一日の如く書齋で紙魚と寫本埃にまみれる古典文獻學・書誌學者「シルヴェスト・ボナール」（アナートル・フランス）のやうに、知慧ではなく知識の擴充を求める「教養、この否定さるべきもの」や偏狹な教條主義は無力と言ふしかない。三谷隆正は、一日10時間に及ぶ書見に耐へ乍らも、人文系書物の讀破を發条とする人格の涵養と陶冶の無力を自覺してゐた。教養（＝知慧）は、生き抜く力の涵養とその熟考で

なければならない。「無慾な貧者は最大の寶を持つている。すなわち己みずからを所有している」（伊吹武彦譯）、「われとともに老ひよ。最上のものはこれから先にある。それは生命の最後である。生命の最初はそのため作られたのだ。われらの時は神の御手にある。・・・青春は半ばを示すにすぎず。神を信ぜよ。恐るるなかれ」（ブラウニング作。福原麟太郎譯）と、内村鑑三のやうに仰瞻しつつ主イエスを傍らに感じたであらうか。無教會主義の信仰を鍛へ上げられながらも、絶對性のもつ自縄自縛に陥らず、狹隘を脱して、むしろ自由に友人たちの教會經營への協力を重ねた。六高在職中には日本基督教會岡山教會（蕃山町教會）の、また一高在職中には中川景輝牧師の日本基督教千駄ヶ谷教會の長老として奉仕した。内村同門の畔上賢造の個人集會への後援も惜しまなかつた。無教會主義の信仰原理の對局にあつたはずの、（ハンセン病）神山復生病院院長でもあつたカトリック神父・岩下壯一は、自分を「親父」と呼ぶ「癩者」（當時）の納得するものでなければ本物の哲學でないと斷じ、「徹底愛他主義」の三谷隆正を絶賛したといふ。その三谷隆正の「内弟子」の一人・神谷美恵子は「癩者」を前に、「何故わたしでなくて、あなたが?」と煩悶した人であつた。「デーモンのいる人」（太田雄三）神谷美恵子は古典語にも堪能で、絶體絶命の自分の生と死を見つめつつ結核と癌を克服し、三谷隆正に範を取るやうに、無教會主義に傾倒しつつも、偏狹と思はれる教條主義を脱しつつハンセン病の病理研究者にして精神科醫となつた。神谷美恵子は三谷隆正生涯の國家や法律への關心を喚起した舊師・新渡戸稲造を「祖父」と書き、岩下壯一と親交を重ねた人でもある。

キリスト信仰で極限を生きた人間群像がここにある。

【著　作】

・南原繁・高木八尺・鈴木俊郎編纂『三谷隆正全集・全５巻』岩波書店，昭和40－41年。（全集の表記を尊重。）

「第１巻」（昭和40年）所収――

編者「序文」・南原繁「後記」

・『信仰の論理』（三谷隆正著，岩波書店，大正15年。→昭和21年，新教出版社，溫故小文選２。→1970年，『信仰の論理・付 問題の所在』新教出版社。）

一　啓蒙思潮

二　自己凝視の論理

三　自己の本体

四　自己中心の社会観

五　愛への冒険

六　他者の体験

七　信仰の本質

八　信仰の冒険の内容

九　他者への本能

十　結語

・『問題の所在』（三谷隆正著，一粒社，昭和４年。〔各稿寄稿雑誌名、不明〕。→1970年，『信仰の論理・付 問題の所在』新教出版社。）

「はしがき」

「新しき恋（メリケの詩）」

「神の強要」

「死者の追憶」

「道」

「ヨハネの遺言」

「徹底愛他主義」

「富める青年の話…マルコ伝10章17以下（マタイ伝19. 16, ルカ伝18, 18）」

「感想と祈念と」

「病める友に送れる」

「絶望罪」

「伝道真髄」

「神の国とは何」

「苦難の福音」

「結婚の意義」

「救ひの可能性と確実性」

「或る結婚式に列して述べたる祝詞」

「最大の業績」

「現代教会の最大欠陥」

「幸福論」

「力の秘訣」

「問題の所在－マルコ伝10章17－28」

「河口をよぎりつ（テニスンの詩）」

・『アウグスチヌス』（三谷隆正著，三省堂，社會科學の建設者－人と學說叢書16，昭和12年。→昭和16年，『アウグスチヌス小傳』〔付錄「アウグスチヌスの肉體論」追加〕三省堂。→1949年，改訂版，三省堂。→昭和27年，『アウグスチヌス：魂の遍歷とその生涯』現代教養文庫版28，社会思想研究会出版部。）

「はしがき」

第一章　アウグスチヌスの世界史的意義

第二章　生ひ立ち

第三章　魂の彷徨

第四章　回心

第五章　ドナチスト分争

第六章　ペラギウス論争

第七章　「神の国」

一　国家論

二　社会論

三　神の国

第八章　晩年

第九章　学績・文献

「第２巻」（昭和40年）所収――

南原繁「後記」

・『知識・信仰・道徳』（三谷隆正著，近藤書店，昭和16年。〔各稿寄稿雑誌名、ほぼ不明〕→1948年，近藤書店。→1971年，新教新書159，新教出版社。）

「はしがき」

「カントの有神論」

「知識と信仰」

「神の国の観念について」

「私の来世観」

「信仰と道徳との関係について」（畔上賢造編『内村鑑三先生信仰五十年記念基督教論文集』所収，向山堂書房，1928年。）

「律法論」

「世界歴史と基督の事実」

「贖罪論」（永遠の生命，昭和９年１月號，江原萬里記念キリスト教講演會〔昭和８年12月３日〕。）

「人間性の悲劇」（→基督教教育同盟会編『キリスト教文学読本６』所収，内外文化社，1949年。）

「信頼の鍛錬」

「S童子を葬る詞」

「汝自身たれ」

「家庭団欒」

「或る結婚式祝詞」

・『幸福論』（三谷隆正著，近藤書店，昭和19年。→1949年，４版。→1968年，〔高橋三郎・解説〕新教新書144，新教出版社。→1981年，岩波書店。→1992年，〔武田清子・解説/座談会「三谷隆正先

生の人と思想」〔南原繁・前田陽一・丸山真男・武田〔長〕清子〕図書1965年９月号分収録，岩波文庫版。）

「まへがき」

第一章　幸福論の歴史

一　ソクラテス学派

二　エピクロス学派

三　ストア学派

四　ロマ人の哲学

五　幸福論哲学の共通点

第二章　幸福とは何か

一　自己内在論（主我的幸福論）

二　自己超越論（没我的幸福論）

三　人格的超個者と非人格的超個者

四　超越神論

第三章　苦難と人生

一　嫉む神

二　守護の精霊

三　苦難の意義

第四章　新しき創造

一　パリサイの濫觴

二　パリサイ主義

三　パウロとニコデモス

四　内心分離

五　真の自由人

第五章　不幸の原因

一　生活の条件と生活の本質

二　二元相剋

三　禁欲の意義

四　体の善用

第六章　幸福の鍵

一　パスカルの賭

二　「至福共働」（幸福の至上境地）

三　幸福なる生涯

四　職業の選択

五　結語

「第３巻」（昭和40年）所収――

南原繁「後記」

・『国家哲学』（三谷隆正「國家哲學」社會經濟體系５，昭和２年。→三谷隆正著，社會科學叢書19，日本評論社，昭和４年。→昭和15年，４版。→昭和16年，５版。→昭和27年，現代教養文庫版38，社会思想研究会出版部。）

「はしがき」

一　国家哲学

二　国家生活

三　国家生活と経済生活

四　国家的権威

五　国家学説史

六　国家生活の意義目的

七　国家哲学的所与

八　歴史的没理的所与

九　国家と法律

十　国際問題

参考文献

附録・「宗教と法律」（社會經濟體系・第３輯，昭和３年。）

一　問題の本体

二　教会の法律化

三　宗教とは何乎

四　法律と信仰

五　結語

・『法律哲学原理』（三谷隆正著，岩波書店，昭和10年。）

「はしがき」

第一章　法律哲学の発生

第二章　法律哲学の発展

第三章　社会生活と其規律

第四章　社会生活規律の実定的内容の規定

第五章　立法と裁判との本質

第六章　裁判と法規の欠陥

第七章　法律の体系

第八章　公法の体系

第九章　私法の体系

第十章　國際法

第十一章　法律学

・『法と国家』（石川吉右衛門，伊藤正巳，雄川一郎，矢澤惇，幾代通編纂，近藤書店，昭和24年。）

南原繁「序文」

編者「後記」

第一部　講義

第一章　社会及び国家

第二章　国家の理論

第一節　原子論的国家観

第二節　全体論的国家観

第三章　国家法体系

第四章　国家法体系（続）

第五章　法の本質

編者註

第二部　論文

「法の基礎づけ」（法學協會雜誌44巻１，２號，大正15年。）

「法律の歴史的制約」（法學新報，昭和４年９月號。）

「法律と慣習」（法學新報，昭和５年９月號。）

「自由民権論と基督教」（寄稿雜誌名，不明。）

「国際政治原理」（未完遺稿，新渡戸稲造記念の爲の手稿絶筆。）

「第４巻」（昭和40年）所収――

南原繁「後記」

・『世界観・人生観』（三谷隆信編，近藤書店，昭和23年。）

三谷隆信「はしがき」

Ⅰ.「二種の真理」（寄稿雜誌名，不明。）

「宗教的個人主義－靈ト真トヲモテ拝スベキナリ（ヨハネ伝４，24）」

（寄稿雜誌名，不明。）

「カントに就いて」（聖書之研究，大正12年７月號。）

「基督者的教養」（福音之使者，大正８年10，11，12月號。）（→1966年，

『現代人生論全集・第12〔人生論語録集〕』所収，雪華社。）

「読書に就いて」（日本聖書雜誌，昭和７年３，４月號。）

「霊魂不滅論」（興文，昭和11年３月號。）

「来世の消息」（聖書之研究，大正14年５月號。）

「内在的歴史観と超越論的歴史観－近世歴史観の再検討」

（工業大學新聞，昭和18年１月?日付。）

「基督者世界観」（内村鑑三先生記念・望星講座・第１輯「我等の世界観」，望星学塾，日本傳道協會出版部發賣，昭和15年。→平成８年，望星学塾，東海大学出版会発売。）

「世界観の確立」（向陵時報，昭和15年11月號。）

「畏怖の文明－シュワイツェル『水と原生林のはざまにて』を読む」

（思想と生活，昭和３年10月號。）

「本居宣長のパリサイ攻撃」（日本聖書雑誌，昭和10年４，５月號。）

「ダニエル書を読む」（日本聖書雑誌，昭和８年６，７，10月號。）

Ⅱ.「内村鑑三先生との初対面」（永遠の生命，昭和４年８月號。）

「〔内村鑑三〕先生と神学」（鈴木俊郎編『内村鑑三先生追想集』所収，岩波書店，昭和９年。→昭和24年，淡路書房。）

「真理と短文」（同上『内村鑑三先生追想集』所収，岩波書店，昭和９年。→昭和24年，淡路書房。）

「新渡戸稲造先生の追憶」（永遠の生命，昭和14年12月號。）

「背きの思ひ出」（前田多門・高木八尺編『新渡戸博士追憶集』所収，故新渡戸博士記念事業實行委員會，昭和11年。）

「新渡戸先生のカライル講演」（帝國大學新聞718, 昭和13年５月２日付。）

「読書法思ひ出」（圖書，昭和15年６月號。）（→1966年，『現代人生論全集・第12〔人生論語録集〕』所収，雪華社。）

「岩元禎先生光来」（一高同窓會報，昭和17年２月號。）

「岩元禎先生を憶ふ」（向陵時報，昭和16年９月號。）

「意味無尽」（『粕谷勇作記念文集』所収，非賣品，昭和12年。）

「嫁ぎゆく嬢に餞し詞」（日本聖書雑誌，昭和７年11月號。）

「愛甥川西瑞夫」（川西田鶴子編『聖翼の陰に：川西瑞夫 追憶と遺稿』所収，川西田鶴子〔非賣品〕，昭和20年。→同編『みつばさのかげに：川西瑞夫遺稿と追憶』三一書房，昭和29年。）

Ⅲ.「真実一路」（向陵時報，昭和10年９月號。）

「運命－卒業者諸君に餞す」（向陵時報, 昭和11年２月號。）（→1966年，『現代人生論全集・第12〔人生論語録集〕』所収，雪華社。）

「産業日本の急務」（東京女子大學報，昭和15年３月號。）

「時代の明智担当者」（向陵時報，昭和12年２月號。）

「報償」（聖書之言，昭和８年12月號。）

「法学者の責任」（法律時報，昭和16年４月號。）

・『神の国と地の国』（全集用編纂）

Ⅰ.「アウグスチヌスの神国観」(日本聖書雑誌，昭和12年８月號，畔上賢造・中央聖書研究會『獨立傳道廿五年：畔上賢造先生傳道廿五周年記念講演並感想集』所収，中央聖書研究會青年會，1937年。)

「アウグスチヌスの肉体観」(聖書之研究，昭和４年９，10月號。)

「アウグスチヌス対ペラギウスの話」(日本聖書雑誌，昭和５年12月號。)

「聖アウグスチヌスとペラギウス（述)」(地塩，昭和５年12月號。)

「母モニカ」(東京女子大學同窓會月報，昭和11年10月號。)

「征矢野晃雄君著『聖アウグスチヌスの研究』を読む」(葡萄樹之枝，昭和９年９月號。)

Ⅱ. ＊「歴史と摂理」(補遺別刷。思想，昭和２年６月號。)

「神の国」(福音之使者，大正９年８月號。)

「教会に就て－某女に答へたる手紙」(希望，大正８年４月號。)

「道（著者の英文“The Way”の譯)」(原文〔全集５に収録〕『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』昭和２年７月號。)

「福音の権威」(日本聖書雑誌，昭和５年６月號。)

「苦難の福音（マタイ伝５．１－12)」(原稿)

「愛と個性（述)」(地塩，昭和５年２月號。)

「罪のあがなひ（イザヤ書53章)」(原稿，昭和５年４月10日付。)

「罪の意識の喪失」(聖書講義，昭和15年４月號。)

「ヒルティ・「神の国は如何にして来るか（翻訳）－某氏への書翰」(聖書講義，昭和17年７－11月號。)

「二題」(福音之使者，大正９年５月號。)

「覚醒といふこと」(福音之使者，大正９年４月號。)

「幸福観の顚倒（マタイ伝５章)」(福音之使者，大正11年10月號。)

「最大の幸福」(福音之使者，大正12年11月號。)

「アリストテレスの幸福論（述)」(聖書講義，昭和15年６月號。)

「可想的最大の幸福（著者の英文〔全集５に収録〕“The Greatest Happiness Imaginable”の譯）」（『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』1926年12月號。）

「キリスト教信仰の実在論（著者の英文〔全集５に収録〕“The Realism of Christian Faith”の譯）」（『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』1927年10月號。）

「没人格主義（述）」（聖書講義，昭和15年７月號。）

「力と幸福の秘訣（講演）」（聖書講義，昭和16年５月號。）

「超越的世界観」（聖書講義，昭和17年12月號。）

「ヨハネ伝7章17節」（原稿）

Ⅲ.「地上の国」（日本聖書雑誌，昭和８年５月號，内村鑑三第三周年記念講演會〔昭和８年3月26日〕。）

「勢力とは何ぞや（講演）」（永遠の生命，昭和８年５月號，内村鑑三第三周年記念講演會〔昭和８年４月３日〕。）

「畏怖と畏敬（著者の英文〔全集５に収録〕“Awe and Renerence”の譯）」（『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』1927年５月號。）

「畏怖なき文明と畏敬の文明（著者の英文〔全集５に収録〕“Civilizations, Aweless and Awesome”の譯）」（『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』1927年12月號。）

「教育論（述）」（聖書講義，昭和15年１，２，５月號。）

「社会と個人（著者の英文〔全集５に収録〕“Society and Individuality”の譯）」（聖書講義，昭和15年９，11，12月号。）

「歴史的現実国家（述）」（聖書講義，昭和15年９，10月號。）

「宇宙の祈り（著者の英文〔全集５に収録〕“A Cosmic Prayer”の譯）」（『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』1927年３月號。）（→1966年，『現代人生論全集・第12〔人生論語録集〕』所収，雪華社。）

「深奥の一致（著者の英文〔全集５に収録〕“The Profound Unity”の譯）」

（『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』1928年２月號。）

「ソクラテスのダイモニオン」（思想と生活，昭和４年11月號。）

「エレミヤ記の一節」（永遠の生命，昭和６年６月號。）

「同胞諸君に訴ふ」（日本聖書雑誌，昭和７年７月號。）

「何故日本的基督教」（日本聖書雑誌，昭和7年９月號。）

Ⅳ.「文化科学における実験」（日本評論社版『社會經濟體系』15，昭和３年。）

「青年と法律学」（法律時報，昭和10年５月號。）

「ロマ法学と大東亜法学」（法律時報，昭和17年10月號。）

「南原教授著『国家と宗教』を読む」（法律時報，昭和18年６月號。）

「岩元禎〔訳〕著『哲学概論』序」（昭和19年。藤田健治「跋」。）

「第５巻」（昭和41年）所収――

南原繁「後記」

・『信仰と生活』（全集用編纂）

Ⅰ.「カール・ヒルティ」（聖書講義，昭和15年12月號。）

「ヒルティの読書論（述）」（聖書講義，昭和16年６－８月號。）

「ヒルティ友情論（意訳）」（聖書講義，昭和16年９－12月號//17年１－２，４－６月號。）

「（ヒルティ著）『眠られぬ夜の為め』（抄訳）」（福音之使者，大正９年10月號。）

「『教育の仕方』（守谷英次譯）序」（近藤書店，1933年〔昭和８年〕。）

「ヒルティの生涯」（守谷英次譯『教育の仕方』再版所収，近藤書店，昭和17年。）

Ⅱ.「信仰の第一歩」（希望，大正８年６月號。）

「神の実証」（福音之使者，大正９年２月號。）

「常識論（著者の英文〔全集５に収録〕“A Theory of Common Sense”の譯）」（『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』昭和２年８月號。）

「経験の書物（著者の英文〔全集５に収録〕“Books of Experience”の譯）」（『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』昭和２年９月號。）

「苦痛の呪ひと至福（著者の英文〔全集５に収録〕“The Curse and Bliss of Pain”の譯）」（『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』昭和２年11月號。）

「何故祈るか」（聖書之研究，昭和３年７月號。）

「地の塩」（地塩，昭和４年９月號。）

「我ら何を信ずるか」（地塩，昭和６年１月號。）

「私は何故神を信ずるか」（基督教女子青年會日本同盟宗教部編纂『私は何故神を信ずるか』所収，教文館出版部，昭和６年。）

「信仰の勘」（日本聖書雑誌，昭和７年８月號。）

「ペテロ応召（畔上〔賢造〕先生三周年記念講演筆記）」（聖約，昭和16年７月號。）

「基督者的処世法」（福音之使者，大正８年７月號。）

「愛への冒険」（福音之使者，大正８年９月號。）

「ヘンリ・ヴァン・ダイク〔米国〕「亡き娘に与ふ」（訳）」（福音之使者，大正９年７月號。）

「クリスマスの想ひ」（福音之使者，大正９年12月號。）

「テニスン〔英国〕「クリスマスの歌」（訳）」（福音之使者，大正９年12月號。）

「〔ウィリアム・〕カウパ〔英国〕の讃美歌中より（訳）」（福音之使者，大正10年１月號。）

「メェリケ（独逸）「慰めや何処?」（訳）」（福音之使者，大正10年12月號。）

「愛の讃（コリント前書13章）」（福音之使者，大正11年１月號。）

「中年の福音」（永遠の生命，昭和５年11月號。）

「老齢に就て（著者の英文〔全集５に収録〕“On Growing Old”の譯）」（『ジャパン・クリスチャン・インテリゼンサー』昭和２年６月號。）

「ダーウィンの歎息」（永遠の生命，昭和７年５月號。）

「基督者間の友誼」（日本聖書雑誌，昭和７年６月號。）

「（内村鑑三著）『基督信徒のなぐさめ』」（操友，昭和15年７月號。）

「通信」（地塩，昭和２年２月號。）

「五月短信」（地塩，昭和２年７月號。）

「東都書斎便り」（地塩，昭和２年12月號。）

「愛兄姉方へ」（地塩，昭和４年５月號。）

「或る学生との対話」（地塩，昭和８年１月號。）

「瞽が手引した話」（日本聖書雑誌，昭和８年４月號。）

「夏期合宿」（操友，昭和13年７月號。）

「所懐」（昭和13年11月，一高基督教青年會公開講演會に於ける講演筆記）」（掲載誌名不明）

「学窓を出る諸君に（述）」（聖書講義，昭和15年３月號。）

「或る求道人の話（述）」（聖書講義，昭和15年８月號。）

「幼年党のおもひで」（明治學院『明治學院五十年史』所収，昭和２年。）

「四十雀と雀」（春陽堂文庫出版「ユーモア・クラブ」，昭和15年４月號。）

Ⅲ．「忘却来時道」（塚本虎二・矢内原忠雄編『藤井武君の面影』所収，藤井武全集刊行會，昭和7年。→1940〔昭和15〕年，藤井武全集刊行會編『藤井武君及び夫人の面影』所収，藤井武全集刊行會）

「江原万里君告別式々辞・同告別式」（聖書の眞理，昭和８年10月號。）

「『畔上賢造著作集』刊行之辞」（畔上賢造著作集著作刊行會編『畔上賢造著作集』第１巻所収，昭和15年。）

「（『畔上賢造著作集』）後序」（同上『畔上賢造著作集』第12巻所収，昭和17年。）

「『独立伝道者畔上賢造』序」（藤本正高編『獨立傳道者畔上賢造』所収，畔上賢造著作集著作刊行會，昭和17年。→1996年，『独立伝道者畔上賢造：伝記・畔上賢造』大空社，伝記叢書230。）

「畔上〔賢造〕さんの半生」(同上『獨立傳道者畔上賢造』所収，昭和17年。→1996年，『独立伝道者畔上賢造:伝記・畔上賢造』大空社，伝記叢書230。)

「返礼の句」(『中川景輝記念文集：一路十字架へ』所収，非賣品，昭和17年。)

「基督に於ける友垣」(黒崎幸吉編『病と死の使命－入間田悌佶君遺稿』所収，黒崎幸吉，昭和17年。)

「ある日の南湖院」(『故山谷志津子追悼文集』所収，非賣品，昭和７年。)

「完成した一生」(河村茂德編『河村俊平追想録』所収，河村茂德，高知，昭和12年。)

「祝福せられたる家」(守谷英次・片山徹編『久原〔壽〕君の思ひ出』所収，片山徹，佐賀，非賣品，昭和14年。)

「告別辞」(『津久井恒夫君追悼錄』所収，非賣品，昭和14年。)

「長信・第一高等學校講師」(小川修一編『(岩切重一追想・) 流芳集』所収，岩切重雄，非賣品，昭和16年。)

Ⅳ.『病院での説教（訳)』(H.E.H.キング/三谷隆正・三谷寿賀子共譯『病院に於ける說教（譯)』向山堂書房，1932年。)

「まえがき」(同『病院に於ける說教（譯)』所収，1932年。)

・「書簡」(全集用編纂)

・「英文」

・「年譜」

【全集未収録の編著作・飜譯・發言等】

＊三谷隆正「歴史と攝理」(上掲全集4補遺別刷。思想，昭和２年６月號。)

＊三谷隆正「小病院論（1）（2)」臨床研究1巻２，３號，1929年。

＊(三谷隆正)「(巻末書簡）一友よりの激励」日本聖書雑誌９月號，昭和６年。

＊三谷隆正「書簡」(塚本虎二・矢内原忠雄編『藤井武君の面影』藤井武

全集刊行會，昭和７年。→藤井武全集刊行會編『藤井武君及び夫人の面影』藤井武全集刊行會，1940〔昭和15〕年。）

＊三谷隆正「我らの國家觀」（８月13日講演要旨）女子青年會30－８，昭和８年。

＊記事「奇遇・小説以上　互に慕ふ四十七年　長谷川伸氏と生母、皮肉な運命に勝つて再會（三谷隆正氏談）」朝日新聞朝刊，昭和８年２月15日付。

＊記事「面白い運命（三谷隆正氏談）」朝日新聞朝刊２月15日付，1933年。

＊徐文波譯「三谷隆正『法律哲學原理』」商務印省，〔出版地不明〕，1935年。

＊Otto Gierke, Eng.trans.by Ernest Baker〔ed.by Mitani Takamasa〕"Natural Law and the Theory of Society, 1600－1800" Kairyudo, Tokyo, 1939

＊三谷隆正「遺族への書簡」（守谷英次・片山徹編『久原〔壽〕君の思ひ出』片山徹，佐賀，1939年。）

＊三谷隆正「新生と淨福」岩波講座「倫理學」第４册，岩波書店，昭和15年。

(?) 三谷隆正「幸福のかぎ」（基督教教育同盟会編『キリスト教文学読本３』所収，内外文化社，1949年。）

(?) 三谷隆正「幸福とは何か」（亀井勝一郎編『幸福とは何か』所収，創元社学生シリーズ，創元社，1951年。

(?) 三谷隆正「我慾す、ゆえにわれあり」（能勢佐十郎『現代文解釈の重点』所収，関書院，1954年。）

(?) 三谷隆正「二月のことば－幸福の鍵」福音と世界14－2，1959年。

＊新資料「三谷隆正書簡　1. 三谷（川西）田鶴子宛，2. 三谷（天達）文子宛」（『三谷隆正の生と死』刊行委員会編『三谷隆正の生と死』所収，新地書房，1990年。）

＊（三谷隆正関係資料）三谷隆正「江原萬里十周年記念講演会「世界観的抗議二つ」」内村鑑三流域1，2000年。

【關聯文獻】

【書評等】

・（廣告）「「信仰の論理」三谷隆正著」東京朝日新聞朝刊５月18日，1926年。

・峯村光郎「三谷隆正「法律哲學原理」」法學研究14－１，昭和10年。

・木村龜二「三谷隆正「法律哲學原理」」國家學會雜誌49－３，昭和10年。

・小野清一郎「三谷隆正教授の「法律哲學」」法律時報７－４，昭和10年。

・讀書「三谷隆正「法律哲學原理」」圖書舘雜誌29－11，昭和10年。

・良書「三谷隆正「法律哲學原理」」（日本圖書舘協會編
『良書百選：第５輯』所収，日本圖書舘協會，昭和11年。）

・松村克己『アウグスティヌス』西哲叢書５，弘文堂，昭和12年。

・石原謙「カレントブックス/三谷隆正「アウグスチヌス」（人と學説叢書）」
帝國大學新聞708，昭和13年。

・評書・青山武雄「三谷隆正「アウグスチヌス小傳」」基督教新聞2588（4/9），
昭和17年。

・廣告「三谷隆正「アウグスチヌス小傳」讀賣新聞朝刊１月３日，1942年。

・書評「三谷隆正全集（全５巻）の特色」東京通信37，昭和40年。

・伊藤正巳「三谷隆正全集第３巻 国家哲学・法律哲学原理・法と国家－
本道をゆく法思想を展開する」法学セミナー創刊15周年記念
特集「一冊の本」no.183（1971年），昭和46年４月号。

・蠟山政道『日本における近代政治学の発達』実業之日本社，昭和24年
（→1968年，改題『日本における近代政治学の発達…付録・
討論 政治学の過去と将来』〔附・「吉野作造編「明治初期政
治學關係文獻年表」〔小野塚（喜平次）教授在職二十五年記念〕
政治學研究・第２，1927年/附・「日本政治学会編「日本政治
学会年報1950－52年」/原田鋼解説〕，ぺりかん社。昭和43
〔1968〕年，新泉社版，叢書 名著の復興・学生版）。

・蠟山政道『政治學原理』岩波書店，岩波全書，1952年。

・石原兵永「まず人間であれ…三谷隆正「ダーウィンの歎息」を読む」

聖書の言349，1964年。
・石原兵永「三谷隆正全集をすすめる」聖書の言360，1965年。
・碧海純一「三谷隆正全集（全５巻）」朝日ジャーナル362（８月６日号），1966年。
・小野忠雄「日本におけるアウグスティヌス研究」（三谷隆正）日本の神学５，1966年。
・家永三郎『一歴史学者の歩み』（三谷隆正『国家哲学』）三省堂，昭和52年（→平成11年，『家永三郎集・第16』所収，岩波書店）。
・宮谷宣史「日本におけるアウグスティヌス文献〔1〕：松村克己博士への感謝として」（三谷隆正）（関西学院大学）神學研究24，1976年。
・宮谷宣史「日本におけるアウグスティヌス文献（2）」（三谷隆正）（関西学院大学）神學研究27，1979年。
・鈴木英雄「新「学生に与う」（I 論文・研究の部，インターンシップの新展開－光り輝く地域，企業と学校の創生を求めて」（三谷隆正『幸福論』）（インターンシップ学会）年報８，2005年。
・鶴田一郎「三谷隆正の遺著『幸福論』について…処女作『信仰の論理』とのかかわりにおいて」ホリスティック教育研究12，2009年。
・鶴田一郎「PAO28三谷隆正の遺著『幸福論』を読む：処女作『信仰の論理』との対照を中心に」日本教育心理学会総会発表論文集51，2009年。
・鶴田一郎「三谷隆正の遺著『幸福論』を読む：処女作『信仰の論理』との対照を中心に（1）（2）（3）」ホリスティック教育研究14，2011年//15，2012年//16，2013年。
・鶴田一郎『人間性心理学の視点から三谷隆正『幸福論』を読む』大学教育出版，2014年。

【證言・回想・創作・評論・引用】
・三谷民子･三谷豊子編『三谷隆正誄辭集（安倍能成筆）』私家版，非賣品，

1944年。

——三谷民子・三谷豊子「はしがき」

川西實三「三谷隆正君略歴」

守谷英次「三谷先生を偲びまつりて」

南原繁「三谷隆正君を弔す」（→「三谷隆正君」〔『學問・教養・信仰』所収，近藤書店，昭和21年。→『現代隨想全集・第８（大内兵衛・南原繁集）』所収，創元社，1953年。→昭和47年，『南原繁著作集』第６巻所収，岩波書店。）

矢内原忠雄「三谷隆正君告別式辭」

三谷民子「弟逝きぬ」

川西田鶴子「兄を見送る」

三谷豊子「病臥より臨終まで」

・山田幸三郎・藤本正高・高橋三郎・中川景輝『真理の人…三谷隆正先生』（昇天20周年記念講演集）待震新書４，待震堂，昭和39年。

——山田幸三郎「序」

中川晶輝「真実の人」

高橋三郎「三谷隆正先生」

高橋三郎「問題の所在」（→1972年，同『歴史を担う者－内村精神の展開』所収，キリスト教夜間講座出版部。）

藤本正高「あがないの人」

山田幸三郎「逝きて十年」

山田幸三郎「新しき創造」

川西実三「三谷隆正君略歴」

高橋三郎「編集後記」

・南原繁・高木八尺・鈴木俊郎編『三谷隆正－人・思想・信仰』岩波書店，1966年。

——編者「はしがき」

Ⅰ．石原謙「三谷隆正君の追憶」（三谷隆正全集「月報」２→1979年，
『石原謙著作集・第11巻』所収，岩波書店。）
高木八尺「三谷君と内村・新渡戸両先生」
（三谷隆正全集「月報」１に加筆。）
安倍能成「三谷君とキリスト教」（三谷隆正全集「内容見本」所載。）
亀井高孝「聡明叡智の人」（三谷隆正全集「月報」１）
桑田秀延「三谷隆正さんの追想」（新稿）
斎藤勇「三谷隆正氏と英文学など」（新稿）
藤田健治「哲学と宗教」（「わが師わが友」「二人の師と二人の弟子と」
『若き人々に』所収，理想社，1964年。昭
和19年，「岩元禎『哲學概論』跋文」，近
藤書店。）
宮本武之助「プロテスタントとしての風格」（新稿）
大塚久雄「病気との和らぎ」（新稿）
佐藤得二「一高の幹部室」（新稿）
松前重義「三谷隆正先生を憶う」（新稿）
羽仁五郎「三谷隆正の葬儀」（三谷隆正全集「月報」３）
岩切重雄「一高時代の三谷君の思出」（三谷隆正全集「月報」３）
南原繁「彼の人間的と地上的なもの」（月刊キリスト，昭和40年11号。）
Ⅱ．山田幸三郎「真理の証人」（三谷隆正全集「月報」１）
鶴田雅二「遠くて近い信仰の友」（聖書第一年?号）
石原兵永「三谷先生の思い出」（三谷隆正全集「月報」２）
鈴木俊郎「自由者　行為者」（三谷隆正全集「月報」２）
伊藤祐之「三谷隆正先生の想い出」（新シオン・巡礼通信?号。
加筆訂正。）
政池仁「哲人の勇気」（三谷隆正全集「月報」２）
藤本正高「三谷隆正先生の友情」（三谷隆正全集「月報」１）
関根正雄「三谷先生の足跡」（新稿）

松尾春雄「Is God Dead?に対する先生の解答」(新稿)

塩沼英之助「独立の人三谷先生」(新稿)

高橋三郎「三谷隆正先生との出合い」(三谷隆正全集「月報」2)

冨田和久「三谷隆正先生」(新稿)

秀村範一「幸福論」(新稿)

水野浩四「三谷隆正全集と私」(新稿)

江原祝「三谷先生の思出」(三谷隆正全集「月報」5)

中川花代「三谷先生の信仰と友情」(三谷隆正全集「月報」4)

鈴井菊江「隆正先生と民子先生」(新稿→1991年,「三谷民子」編纂委員会編『三谷民子…生涯・想い出・遺墨』所収, 女子学院同窓会。)

Ⅲ. 鱸正太郎「学と人」(三谷隆正全集「月報」3)

片山徹「三谷隆正先生の岡山時代」(三谷隆正全集「月報」4)

守谷英次「恩師三谷先生」(三谷隆正全集「月報」5)

神谷美恵子「三谷先生との出あい」(新稿)

高尾亮一「理想的人間像」(新稿)

矢内原伊作「三谷先生のこと」(三谷隆正全集「月報」5)

新海明彦「全集の刊行を感謝して」(新稿)

臼田斌「私の観たる三谷先生」(新稿)

辻村正吾「三谷先生を憶う」(新稿)

中河晶輝「正義の人」(新稿)

山下次郎「三谷先生の思出」(新稿)

井上徹郎「私の三谷隆正先生」(新稿)

久原良「宝石の小箱から」(新稿)

Ⅳ. 南原繁・丸山真男・前田陽一・長〔武田〕清子

「〈座談会〉三谷隆正先生の人と思想－全集刊行に際して」(図書, 昭和40年9月号。→1992年, 三谷隆正『幸福論』岩波文庫版に再録。)

Ⅴ. 竹山道雄「亡き三谷先生のこと」(朝日新聞, 昭和39年２月14日付。)

木村健康「三谷隆正先生」(三谷隆正全集「月報」３)

氷上英広「力の秘密」(三谷隆正全集「月報」５)

福島要一「曇りなき理性」(新稿)

前田陽一「徹底他者への信仰」(朝日新聞, 昭和40年9月19日付。)

野田良之「三谷隆正先生の法哲学」(新稿)

関谷光彦「三谷先生について思う」(新稿)

秀村欣二「三谷先生の御蔵書とアウグスチヌス」(新稿)

前田護郎「学ぶ喜びと生きる喜び」(東京大学「教養学部報」139に加筆。)

岩永健吉郎「恩師三谷隆正先生」(三谷隆正全集「月報」３)

喜多川篤典「三谷先生のこと」(新稿)

伊藤正巳「三谷先生の学問」(三谷隆正全集「月報」３)

雄川一郎「三谷先生の法制講義」(新稿)

福田歓一「真の意味での「教養」」(週刊読書人, 昭和40年10月11日号。)

碧海純一「知的貴族主義者の思想」(朝日ジャーナル, 昭和41年２月６日号。)

大野晋「三谷先生と私」(三谷隆正全集「月報」４)

Ⅵ. 三谷隆信「兄三谷隆正を思う」(三谷隆正全集「月報」１)

山谷省吾「病気と健康」(新稿)

山谷妙子「隆兄さんのこと」(新稿)

川西実三「隆さんの思い出（学生時代)」(新稿)

川西田鶴子「兄・三谷隆正の一面」(図書, 昭和40年９月号。)

湯沢健「結婚と信仰」(新稿)

湯沢寿貞子「御恩恵の跡を省みて」(三谷隆正全集「月報」４)

三谷豊子「思い出」(三谷隆正全集「月報」５)

天達文子「隆兄さんに手紙を書くまで」(三谷隆正全集「月報」４)

Ⅶ. 矢内原忠雄「三谷隆正君告別式辞」(『三谷隆正誄辭集』所収。)

南原繁「三谷隆正君を弔す」(『三谷隆正誄辭集』所収。)

守谷英次「三谷先生を偲びまつりて」(『三谷隆正誄辭集』所収。)

川西田鶴子「兄を見送る」(『三谷隆正誄辭集』所収。)

三谷豊子「病臥より臨終まで」(『三谷隆正誄辭集』所収。)

竹山道雄「三谷先生の追憶」(独立２，1948年３月號。→昭和58年，同『竹山道雄著作集・４/樅と木と薔薇』所収，福武書店。)

三谷民子「弟逝きぬ」(『三谷隆正誄辭集』所収。)

南原繁「挽歌」(歌集『形相』所収，創元社，昭和23年。)

「三谷隆正略伝」

・明治学院百年史委員会編『明治学院百年史資料集』(第１集…第８集) 明治学院，1975－78年。

・明治学院編『明治学院百年史』明治学院，昭和52年〔1977年〕。

・高橋英夫『偉大なる暗闇－師岩元禎と弟子たち』新潮社，1984年 (→1993年，講談社文芸文庫版)。

・大濱徹也・女子学院史編纂委員会編『女子学院の歴史』女子学院，1985年。

・『三谷隆正の生と死』刊行委員会編『三谷隆正の生と死』新地書房，1990年。

——第一部　三谷隆正誄辭集（＊上掲）

第二部　三谷隆正書簡（＊上掲，新資料，二書簡）

第三部　三谷隆正先生生誕百年、没後四十五年記念懇談会

一，安藝元雄「経過報告」

二，隅谷三喜男「講演・三谷隆正先生の御生涯」

三，感話

1．越智明「六高時代の三谷先生」

2．辻村正吾「三谷先生を憶う」

3．松隈俊子「三谷隆正先生をお偲びして」

4．岩永健吉郎「三谷隆正先生を偲ぶ」

5．森田宗一「限りなく澄んだ瞳…三谷隆正先生を憶う」

6．高橋三郎「感謝」

7．富田和久「三谷隆正先生の教え－半世紀の宿題」

8．対馬秀雄「わが心の師、三谷隆正先生」

9．中川晶輝「真実の人，三谷隆正先生」

10．道正邦彦「幻の校長先生」

11．川西田鶴子「教育における自主性」

四，三谷信「遺族挨拶」

五，参会者寄稿

1．道家弘一郎「「高等国語」巻二の上」

2．野田澄子「家庭団欒」

3．臼田斌「三谷隆正先生に憶う」

4．西村秀夫「次の世代に伝えることはできるだろうか」

5．中川晶輝「三谷先生と肺病患者」

6．湯沢寿貞子「この上もなきよき兄、隆兄さん」

7．矢内原伊作「『若き日の日記』より」

第四部　その他

一，三谷隆正年譜

二，三谷隆正文献目録（川西進・作成）

角替卓二「編集後記」

「執筆者略歴」

・「三谷民子」編纂委員会編『三谷民子……生涯・想い出・遺墨』

女子学院同窓会，1991年。

――一，大濱徹也「生涯とその時代」

二，「想いでのなかの三谷民子」（50篇）中

〈既發表〉

鈴井菊江「隆正先生と民子先生」（南原繁・高木八尺・鈴木俊郎編『三谷隆正－人・思想・信仰』所収，岩波書店，1966年。）

・川西田鶴子著/川西薫・川西剛・川西進編『主に負われて百年…
川西田鶴子文集』(新教出版社, 2003年。)
——Ⅱ. 回想…「兄・三谷隆正の一面」(図書, 昭和40年9月号, 南原繁・
高木八尺・鈴木俊郎編『三谷隆正－人・思想・信仰』
所収, 岩波書店, 1966年。)
「教育における自主性」(「三谷隆正の生と死」刊行委
員会編『三谷隆正の生と死』
所収, 新地書房, 1990年。)
Ⅲ. みつばさのかげに－川西瑞夫の生涯(川西田鶴子編『川西瑞
夫・みつばさのかげに』所収, みすず書
房, 昭和40年。)
Ⅴ. みくにに送る…「兄を見送る」〔三谷隆正〕(三谷民子・三谷
豊子編『三谷隆正誄辭集(安倍能成筆)』所収,
私家版, 非賣品, 1944年。南原繁・高木八尺・
鈴木俊郎編『三谷隆正－人・思想・信仰』所収,
岩波書店, 1966年。)

●〈上記「三谷隆正文献目録」川西進・作成分に文獻追加〉
・敍任及辭令「三谷隆正(文部省)」(文部省印刷局編)
官報1916年6月17日付。
・石原兵永「三谷隆正先生」(同『忘れ得ぬ人々－内村鑑三をめぐって』
所収, キリスト教圖書出版社, 1928年。)
・記事「直管校異動」(三谷隆正)東京朝日新聞朝刊3月31日付, 1929年。
・記事「奇遇・小説以上　互に慕ふ四十七年　長谷川伸氏と生母、皮肉な
運命に勝つて再會(三谷隆正氏談)」朝日新聞朝刊昭和8年2月
15日付。
・記事「惠まれた子運に重なる喜び 老母をめぐる知名の子等」(三谷隆正)
東京朝日新聞朝刊2月15日付, 1933年。

・記事「旅立ちの矢先に知つた母の居所 異母兄弟は教授や課長」
（三谷隆正）東京朝日新聞朝刊２月15日付，1933年。
・記事「子と母に聞く 母の生活を亂すまいと、逢ふまでの惱み 亡父の引合せかといふ〔長谷川〕伸氏〈寫眞〉」（三谷隆正）東京朝日新聞朝刊２月15日付，1933年。
・記事「いまに忘れぬ別れた日の事 かう刀自の話」（三谷隆正）東京朝日新聞朝刊２月15日付，1933年。
・記事「面白い運命（三谷隆正氏談）」朝日新聞朝刊２月15日付，1933年。
・記事「喜びの長谷川〔伸〕氏を悲しませるもの 母なき子等から羨望の手紙の山 20日間に130通〈寫眞〉」（三谷隆正）東京朝日新聞朝刊３月９日付，1933年。
・記事「華かに、しんみりと〔長谷川〕伸氏母子を祝ふ「瞼の母」の眼にもうれし涙、盛會を極めた賀會〈寫眞〉」（三谷隆正）東京朝日新聞朝刊３月16日付，1933年。
・聖書研究「ガラテヤ書の研究……三谷隆正先生の組」（講習會）
女子青年界30－８，昭和８年。
・記事「相逢ふて５年目 長谷川伸氏が當時を偲ぶ會〈寫眞〉」（三谷隆正）
朝日新聞朝刊２月13日付，1937年。
・九鬼周造「一高時代の舊友」（三谷隆正，岩下壯一）東京朝日新聞朝刊７月15－17日付，昭和12年。（→昭和16年，同『をりにふれて（遠里丹婦麗天）』所収，岩波書店。→1981年，『九鬼周造全集・第５』所収，岩波書店。）
・『向陵誌』（三谷隆正）第１巻，第一高等學校寄宿寮，1937年。
・記事「靜岡高校長に田中氏－三谷〔隆正〕前校長の進退を繞り、文部省の人事に遺憾」帝國大學新聞782（昭和14年10月16日付。）
・記事「姫路、靜岡高校校長更迭」（三谷隆正）讀賣新聞朝刊８月１日付，1939年。
・記事「兩校長更迭」（三谷隆正）東京朝日新聞朝刊８月１日付，1939年。

・玉置住定「追憶・三谷隆正」（同『明朗政治家山口義一君』所収，山口傳刊行會，堺，昭和14年。）
・記事「引退する“偉大なる暗闇”岩元〔禎〕先生に教へ子が美擧」〈寫眞〉」（三谷隆正）東京朝日新聞朝刊４月２日付，1941年。
・無署名「三谷〔隆正〕先生告別式に列して－感想二篇」嘉信７－3，1943年。
・社会蘭「三谷隆正死去」讀賣新聞朝刊２月18日付，1944年。
・（死亡廣告）「三谷隆正」讀賣新聞朝刊２月18日付，1944年。
・黒崎幸吉「甲南たより」（三谷隆正）聖約72，1944年。
・黒崎幸吉「三谷隆正君を憶ふ」聖約72，1944年。
・藤本正高「三谷〔隆正〕先生召さる」聖約72，1944年。
・藤本正高「東京雑信」（三谷隆正）聖約72，1944年。
・塚本虎二「雑感雑錄」（三谷隆正）聖書知識171，1944年。
・竹山道雄「川西瑞夫君の追憶」（川西田鶴子編『聖翼の陰に：川西瑞夫追憶と遺稿』所収，川西田鶴子〔非賣品〕，昭和20年。→昭和58年，同『竹山道雄著作集・４/樅と木と薔薇』所収，福武書店。）
・高橋三郎「三谷隆正先生」聖書研究會同人誌「エクレシア」２，1947年（→昭和39年，山田幸三郎･藤本正高･高橋三郎･中川景輝『真理の人…三谷隆正先生』（昇天20周年記念講演集）所収，待震新書４，待震堂。→1976年，高橋三郎『地の塩となった人々…わが師わが友』教文館。→2000年，同『高橋三郎著作集・第１』所収，教文館）。
・政池仁「三谷隆正先生を憶う」（同『恩恵の露』所収，三一書店，1949年。→1960年，２版，山本書店。）
・長谷川伸『ある市井の徒：越しかたは悲しくの記録』（三谷隆正）朝日新聞社，1951年。
・高木彬光「わが一高時代の犯罪」（三谷隆正）宝石５，６月号，昭和26年。

(→昭和51〔1976〕年, 同『わが一高時代の犯罪』角川文庫版。)
・ 會津伸「三谷隆正先生－生涯の素描のために」學燈50－11, 1953年。
・ 大江健「近代民主政治本質論序説」(三谷隆正) 帯広畜産大学学術研究報告, 別巻1, 1954年。
・ 長谷川伸『自傳随筆：新コ年代記』(三谷隆正) 宝文館, 1956年。
・神谷美恵子訳『マルクス・アウレーリウス　自省録』(三谷隆正) 岩波文庫, 1956年 (→2007年, 兼利琢也・補訂, 岩波文庫)。
・ 久山康編『近代日本とキリスト教…大正・昭和編』(三谷隆正) 創文社, 1956年。
・ 立澤剛「魂の飛躍…三谷隆正君を追悼す」(同『立澤剛随筆集』所収, 立澤剛随筆集刊行会, 1957年。)
・ 會津伸「立澤剛先生の片影」(三谷隆正) 學燈54－9, 1957年。
・ 矢内原忠雄『私の歩んできた道』(三谷隆正) 東京大学出版会, 1958年 (→1975年, UP選書。→1997年, 改題『矢内原忠雄：私の歩んできた道』, 人間の記録9, 日本図書センター。→『矢内原忠雄全集』第26巻所収, 岩波書店, 1965年)。
・ 學術「ヒルティ「幸福論」「眠られぬ夜のために」神と仕事の結合」(三谷隆正) 讀賣新聞夕刊11月26日付, 1958年。
・ 會津伸「ヒルティの評伝について」(三谷隆正) (『ヒルティ著作集』第7巻月報X, 白水社, 1959年。)
・ 大賀一郎「哲人三谷隆正先生君を思ふ」(同『ハス』所収, 内田老鶴圃, 1960年。)
・ 武田清子「教育家としての新渡戸稲造：新渡戸稲造の研究 (その1)」(三谷隆正) 国際基督教大学学報Ⅰ－A, 教育研究7, 1960年。
・ 富田和久「三谷隆正先生－全集発刊によせて」おとずれ6, 1963年。
・ 富田和久「おさなご－川西瑞夫に捧ぐ」(三谷隆正) おとずれ6, 1963年。
・ 記事「亡き三谷隆正先生のこと」朝日新聞朝刊2月1日付, 1964年。
・ 印具徹「神学的自由, とくに「基督者の自由」について」(三谷隆正)

（関西学院大学）神學研究13，1964年。
・富田和久「三谷隆正先生」おとずれ19，1965年。
・川西田鶴子編『川西瑞夫・みつばさのかげに』（みすず書房，昭和40年。←同編『聖翼の陰に：川西瑞夫追憶と遺稿』所収，川西田鶴子〔非賣品〕，昭和20年。/同編『みつばさのかげに：川西瑞夫遺稿と追憶』三一書房，昭和29年。）
・川西田鶴子「川西瑞夫の生涯」（同編『川西瑞夫・みつばさのかげに』所収，みすず書房，昭和40年。）
・書評「『川西瑞夫・みつばさのかげに』」東京通信37，昭和40年。
・矢内原忠雄「追憶・三谷隆正」（『矢内原忠雄全集』第25巻所収，岩波書店，1965年。）
・矢内原忠雄「私の歩んできた道」（三谷隆正）（同『全集』第26巻所収，岩波書店，1965年。）
・矢内原忠雄「感想録」（三谷隆正）（同『全集』第27巻所収，岩波書店，1965年。）
・矢内原忠雄「日記」（三谷隆正）（同『全集』第28巻所収，岩波書店，1965年。）
・矢内原忠雄「書簡・補遺・年譜」（三谷隆正）（同『全集』第29巻所収，岩波書店，1965年。）
・河野多麻「勿體ない英語の先生…三谷隆正先生の思出」図書198，1966年。
・南原繁「思想・信仰・人生 対話者・熊野義孝－三谷隆正をめぐって」・「三谷隆正の人となり」（南原繁『南原繁対話：民族と教育』所収，東京大学出版会，1966年。）
・原敬吾「三谷隆正先生の追想」心20－6，1967年。
・富田和久「三谷隆正紹介」おとずれ42，1969年。
・矢内原伊作「実存主義とニヒリズム」（三谷隆正）おとずれ42，1969年。
・広野正二「隨想－三谷先生を偲ぶつどい」ひこばえ14，1969年。
・長谷川伸『ある市井の徒：新コ年代記・我が「足許提灯の記：私眼抄」』

（三谷隆正）（『長谷川伸全集』第10巻所収，朝日新聞社，1971年。→1978年，旺文社文庫版『ある市井の徒：新コ年代記』。→1991年，中公文庫版『ある市井の徒：越しかたは悲しくの記録』〔伊東昌輝・解説〕。）

・伊東昌輝「長谷川伸年譜」（三谷隆正）（『長谷川伸全集』第16巻所収，朝日新聞社，1971年。）

・山田幸三郎「思い出二、三」（三谷隆正）（『われらの課題－矢内原忠雄先生十周年記念文集』所収，非賣品，1971年。）

・高橋三郎「私の神学的遍歴」（三谷隆正）新教・秋季号，1971年（→2000年，同『高橋三郎著作集・第1』所収，教文館）。

・南原繁「三谷隆正君」（昭和47年，『南原繁著作集』第６巻所収，岩波書店。←同『學問・教養・信仰』所収，近藤書店，昭和21年。）

・山田幸三郎『信仰五十年…山田幸三郎遺稿集』（三谷隆正）山田幸三郎遺稿集刊行会，1973年。）

・(?)「〈シンポジウム〉キリスト教思想史を貫く人間の問題：人間の回復をめざして」（三谷隆正）桃山学院大学キリスト教論集９，1973年。

・中村哲「南原〔繁〕先生の思想的故郷」（三谷隆正）讀賣新聞朝刊５月22日付，1974年。

・高橋三郎「南原繁先生」（三谷隆正）十字架の言８月号，1974年（→2000年，『高橋三郎著作集・第11』所収，教文館）。

・川西実三『感銘録』（三谷隆正）私家版，非賣品，1974年。

・矢内原伊作『若き日の日記－われ山にむかひて』（三谷隆正）現代評論社，1974年。

・矢内原伊作「矢内原忠雄伝（1－56）」（三谷隆正）朝日ジャーナル16（44－52），1974年//17（1－10，12－17，19－29，32－48，51－54，56），1975年（→1998年，矢内原伊作『矢内原忠雄伝』（三谷隆正）みすず書，1998年）。

・矢内原伊作・川西実三・三谷隆信「矢内原忠雄伝－わが師わが父」

（三谷隆正）朝日ジャーナル17－3，1975年。
・西村秀夫『矢内原忠雄』（三谷隆正）日本基督教団出版局，昭和50年。
・佐藤忠男『長谷川伸論』（三谷隆正）（〔伊東昌輝・解説〕，中央公論社，1975年。→昭和53年，中公文庫版。）
・川西実三「六十有余年来奇縁の心友」（三谷隆正）（丸山真男・福田歓一編『回想の南原繁』所収，岩波書店，1975年。）
・喜多川篤典「南原父と私」（三谷隆正）（同上，1975年。）
・三谷隆信「南原繁兄を憶う」（三谷隆正）（同上，1975年。）
・高木彬光『わが一高時代の犯罪』角川文庫，昭和51年（←「わが一高時代の犯罪」宝石5，６月号，昭和26年）。
・高橋三郎『地の塩となった人々：わが師わが友（正続）』（三谷隆正）1976－83年。
・小幡浩「尊敬の的…三谷隆正先生」ともしび24，1977年。
・黒崎英子『欅の木の下で』（三谷隆正）私家版，非賣品，1977年。
・高尾亮一『十番目の女神』（三谷隆正）求龍堂，1977年。
・キリスト教学校教育同盟会編『日本キリスト教教育史』（三谷隆正）創文社，1977年。
・小原信「内村鑑三における文体と論理」（三谷隆正）青山学院女子短期大学紀要32，1978年。
・石原兵永「三谷隆正先生召される/「聖書の言」の廃刊」聖書の言529，1980年。
・関根正雄「三谷〔隆正〕先生のこと」（『関根正雄著作集・第３巻』所収，1980年。）
・石原兵永『私の歩んで来た道：戦前・戦中・戦後』（三谷隆正）山本書店，1980年。
・山谷省吾『渓流－激動期のわが半生』（三谷隆正）日本基督教団出版局，1980年。
・神谷美恵子『遍歴』（三谷隆正）神谷美恵子著作集９，みすず書房，1980年。

・「追悼　神谷美恵子」(19篇，年譜)（三谷隆正）みすず22－3（238)，1980年。
・三谷隆信『回顧録』私家版，非賣品，昭和55年（→1999年，中公文庫版『回顧録：侍従長の昭和史』)。
・亀徳正之「三谷〔隆正〕先生の言葉」日本経済新聞12月16日付，1981年。
・神谷美恵子『存在の重み』(三谷隆正）神谷美恵子著作集６，みすず書房，1980年。
・高橋三郎「真理をもとめて－私の精神遍歴」(1982年7月18日，NHK教育テレビで放映，8月15日再放送。『十字架の言』1982年10月号。→1985年，同『独立伝道の歩み』所収，キリスト教図書出版社。→2000年，同『高橋三郎著作・第１』所収，教文館)。
・神谷美恵子『日記・書簡集』(三谷隆正）神谷美恵子著作集10，みすず書房，1982年。
・内村鑑三「別篇」(内村主宰Japan Christian Intelligencer誌に寄稿の三谷隆正の英文論文への付言。『内村鑑三全集・第30巻』所収，岩波書店，1982年)。
・関正夫「札幌農学校の教育：一般教養教育を中心として」(三谷隆正）［広島大学］大学論集12，1983年。
・森田宗一『多摩の山河と人間教育』(三谷隆正）匠文社，1983年。
・与謝野道子『老いては子に従わず』(三谷隆正）主婦と生活社，1983年。
・『操山寮七十年史』(三谷隆正）操山会，1983年。
・隅谷三喜男『日本プロテスタント史論』新教出版社，1983年。
・高橋英夫「解説」(三谷隆正）(『竹山道雄著作集・４/樅と木と薔薇』所収，福武書店，昭和58年。)
・林健太郎「一高の精神」(三谷隆正）波，1984年５月号。
・神谷美恵子『若き日の日記』(三谷隆正）神谷美恵子著作集・補巻１，みすず書房，1984年。
・安藝基雄『平和を作る人々』(三谷隆正）みすず書房，1984年。

・安藝基雄『花の幻』（三谷隆正）みすず書房，1985年。
・高橋三郎『独立伝道の歩み』（三谷隆正）キリスト教図書出版，1985年。
・隅谷三喜男『ひとすじの途－学問と信仰のはざまで』（三谷隆正）
新地書房，1986年。
・政池仁『交友録』（三谷隆正）（『政池仁著作集16』所収，
キリスト教図書出版，1987年。）
・亀徳正之「三谷隆正先生」（昭和十二年一高会編『本郷から駒場へ
－卒業五十周年記念文集』所収，非賣品，1987年。）
・額田煜「向陵五年」（三谷隆正）（同上，1987年。）
・高原信一「神谷美恵子と宗教」（三谷隆正）福岡大学総合研究所報91，
1987年。
・「長谷川伸略年譜」（三谷隆正）悲劇喜劇，40巻11号，1987年。
・福田歓一編『南原繁書簡集』（三谷隆正）岩波書店，1987年。
・道正邦彦「幻の校長先生」（三谷隆正）日本経済新聞６月11日付夕刊，
1988年。
・角替卓二「神秘を避けず」（三谷隆正）聖書の言葉48，1988年。
・角替卓二「乳のみ子の信仰」（三谷隆正）聖書の言葉56，1989年。
・富田和久「動くもの動かぬもの」（三谷隆正）おとずれ81，1989年。
・安藝基雄『安藝基雄感話集Ⅰ オリオンの光の下で』（三谷隆正）
みすず書房，1989年。
・道家弘一郎『ミルトンと近代』（三谷隆正）研究社出版，1989年。
・丸山真男・福田歓一編『聞き書き・南原繁回顧録』（三谷隆正）
東京大学出版会，1989年。
・佐藤全弘「高橋三郎」（三谷隆正）（無教会論研究会編『無教会論の軌跡』
所収，キリスト教図書出版，1989年。）
・高橋三郎「三谷隆正先生への感謝」（1989年，７月１日，学士会館〔東京・
神田〕で開催，三谷隆正先生生誕百周年・昇天四十五周年記
念懇話会講演。→十字架の言９月号，1989年。→2000年，『高

橋三郎著作集・第11』所収，教文館。）
・矢内原伊作「私が哲学科を志望したとき」（三谷隆正）（『和辻哲郎全集』月報３，岩波書店，1989年。）
・杉山好「駒場、四十一年のわが学舎」（三谷隆正）教養学部報，２月10日号，1989年。
・富田和久「過ぎし三年」（三谷隆正）（『彌生道－一高卒業五十周年記念文集』所収，1990年。）
・大濱徹也編「教会史誌目録」歴史人類21，1993年。
・東京女子大学同窓会編『私たち日本人の聖書理解』東京女子大学同窓会，1994年。
・大竹庸悦「内村鑑三，その政治観の変遷をめぐって：特に田中正造との関連において」（三谷隆正）流通経済大學論集29－2，1994年。
・富田和久『忘れえぬ人々〈慰め〉』（三谷隆正）富田和久著作集編集委員会編，『富田和久著作集・５』，1994年。
・鈴木久「田村幸太郎－職業への誇りに徹したクリスチャン・セールスマン」（児玉〔三谷〕菊代）（稲葉満・山下幸夫編『内村鑑三の継承者たち－無教会信徒の歩み』教文館，平成７年。）
・江尻美穂子『神谷美恵子』（三谷隆正）清水書院，1995年。
・太田雄三「デーモンのいる女性－自伝的文章に見る神谷美恵子」（三谷隆正）みすず37－11（416），1995年。
・上野正二「教養の〈形〉」（三谷隆正）大分県立芸術文化短期大学研究紀要34，1996年。
・道家弘一郎『炎の痕跡：詩と愛と信仰』（三谷隆正）沖積舎，1996年。
・松田高志「教育と宗教－北海道家庭学校の思想と実践に学ぶ」（三谷隆正）［神戸女学院大学］論集42－3，1996年。
・武田清子『私の敬愛する人びと：考え方と生き方』（三谷隆正）近代文芸社，1997年。
・高橋三郎「私の戦中・戦後」（三谷隆正）十字架の言９月号，1997年

（→2000年，『高橋三郎著作集・第１』所収，教文館）。
・加藤節『南原繁』（三谷隆正）岩波新書，1997年。（←加藤節「南原政治哲学における「学的世界観」の構造…「価値並行論」を中心とする予備的考察」思想，1989年９月号。）
・矢内原伊作『矢内原忠雄伝』（三谷隆正）みすず書房，1998年（←同「矢内原忠雄伝（１－56）」（三谷隆正）朝日ジャーナル16（44－52），1974年//17（１－10，12－17，19－29，32－48，51－54，56），1975年）。
・宮原安春『神谷美恵子…聖なる声』（三谷隆正）講談社，1997年（→2001年，文春文庫版）。
・神谷美恵子『本、そして人』（「ポリテイアの今昔」「マルクス・アウレリウス『自省録』解説」，三谷隆正）みすず書房，神谷美恵子コレクション，1998年。
・関根和江「ケーベル先生文献（1）」（三谷隆正）東京藝術大学音楽部紀要24，1998年。
・井上忠「十字架のかなたに（続）－〈こと〉の先言措定第二部」（三谷隆正）聖徳大学総合研究所論集40，1998年。
・岩崎允胤「日本近世思想と円空仏」（三谷隆正）駒澤大学佛教学部論集29，1998年。
・山田創一「家永教科書検定第三次訴訟上告審判決」（三谷隆正）山梨学院大学法学論集29，1998年。
・速川和男「〈送別の辞・思い出の記〉さよならだけが人生だ」（三谷隆正）立正大学文学部論叢109，1999年。
・岡井隆「けさのことば」（三谷隆正）中日新聞２月４日付，1999年。
・山本俊樹「著作集第一巻のために」（三谷隆正）（『高橋三郎著作集・第１』所収，教文館，2000年。）
・坂内宗男制作「高橋三郎年譜」（三谷隆正）（『高橋三郎著作集・第１』所収，教文館，2000年。）

・劉熙世「高橋三郎先生の「わが師わが友」(三谷隆正)(『高橋三郎著作集・第11』所収，教文館，2000年)。
・政池仁・「聖書の日本」読者会編『すて石：政池仁の信仰と生涯』(三谷隆正) シャローム図書，2001年。
・諸冨文紀「教壇生活四十年:わたしの足跡（退職記念講演)」(三谷隆正) 創大教育研究10，2001年。
・瀬岡誠「近代住友の経営理念と宗教的基盤：キリスト教と陽明学を中心に」(三谷隆正) 経済史研究５，2001年。
・神谷美恵子『神谷美恵子日記』(三谷隆正) 角川文庫，2002年。
・太田雄三『喪失からの出発…神谷美恵子のこと』(三谷隆正) 岩波書店，2001年。
・大嶋仁「書評・太田雄三著『喪失からの出発…神谷美恵子のこと』」(三谷隆正) 比較文学45，2002年。
・原鉄哉「書評・太田雄三著『喪失からの出発…神谷美恵子のこと』(三谷隆正) 岩波書店，2001年」(三谷隆正) 社会福祉研究所報12，2002年。
・高島俊男「瞼の母」(三谷隆正)（週刊文春，2002年11月21日号。→2004年，同『お言葉ですが⑧百年の言葉』所収，文藝春秋。→2007年，改題『お言葉ですが⑧同期の桜』文春文庫版)。
・太田愛人『神谷美恵子…若きこころの旅』(三谷隆正) 河出書房新社，2003年。
・平川祐弘「西洋にさらされた日本人の自己主張:新渡戸稲造の『武士道』」(三谷隆正) 大手前大学人文科学部論集４，2003年。
・播本秀史「佐藤在寛のキリスト教観：新井奥邃の系譜（第五部会）(〈特集〉第六十二回学術大会紀要)」(三谷隆正) 宗教研究77－4，2004年。
・金文吉「神代文字と『六合雑誌』(第五部会)（〈特集〉第六十二回学術大会紀要)」(三谷隆正) 宗教研究77－4，2004年。

・太田愛人『『武士道』を読む－新渡戸稲造と「敗者」の精神史』
（三谷隆正）平凡社新書，2006年。
・柿木ヒデ『神谷美恵子：人として美しく、いくつもの生ただ一つの愛』
（三谷隆正）大和書房，2005年。
・関口安義「反骨の教育家：評伝　長崎太郎Ⅰ」（三谷隆正）
都留文科大学研究紀要63，2006年。
・木村義之「『ある市井の徒』のことばと長谷川伸の言語生活をたどる」
（三谷隆正）国文学踏査，18，2006年。
・川西薫「一高教授新渡戸稲造とその弟子たち－川西実三の日記を通して」
（三谷隆正）新渡戸稲造の世界19，2010年。
・釘宮明美「神谷美恵子とキリスト教:魂の認識への献身と人間の宗教性」
（三谷隆正）キリスト教文化研究所紀要31，2012年。
・山田和夫「精神科医神谷美恵子の病跡とSpirituality」（三谷隆正）
東洋英和大学院紀要８，2012年。
・若松英輔「生きる哲学（第７回）感じる：神谷美恵子と天来の使者」
（三谷隆正）文學界68，2014年。

【辭書・事典等】
・日本近代文学館編『日本近代文学大事典・第３巻』（三谷隆正）講談社，
1977年。
・日本基督教団出版局編『キリスト教人名辞典』（三谷隆正），1986年。
・日本キリスト教歴史大事典編集委員会編『日本キリスト教歴史大事典』
（三谷隆正）教文館，1988年。
・日外アソシエーツ編集部編『日本の思想家・時代の潮流を創った思想家
伝記目録』（三谷隆正）日外アソシエーツ，
紀伊国屋書店，2005年。
・フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia，フリー百科辞典)』
「三谷隆正」

・フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia，フリー百科辞典））』
「新渡戸稲造及び内村鑑三の門下生」（三谷隆正）
・「三谷隆正の墓」（http://www6.plala.or.jp/guti/cemetery/PERSON/M/mitani－t. html）東京・多摩墓地

【研究文献】

・家永三郎「國家哲學の根本問題」（三谷隆正）（東京高等學校）
文藝部雑誌18，昭和８年。
・尾高朝雄『國家構造論』（三谷隆正）京城帝國大學法學會叢刊３，
岩波書店，昭和11年（→1948年、岩波書店刊）。
・川副國基「三谷隆正」・〔「南原繁」〕（同『現代評論』所収，學燈文庫，
學燈社，1953年。）
・エミール・ブルンナー /矢内原忠雄・高橋三郎訳『日本の無教会運動』
新教出版社，1959年。
・白石大二「『幸福論』の著者 三谷隆正先生」実践国語教室21（235），
1960年。
・矢内原忠雄「三谷隆正」（『矢内原忠雄全集』第25巻所収，岩波書店，
1965年。）
・石田敏雄「ゲーテの自然観：主として“若きウェルテの悩み”によって」
（三谷隆正）帯広畜産大学学術研究報告，第Ⅱ部３－２，
1966年。
・富山紗和子「三谷隆正の人と思想:「信仰の論理」を中心として」史艸７，
1966年。
・野田良之「三谷隆正先生の法哲学」（南原繁・高木八尺・鈴木俊郎編
『三谷隆正…人・思想・信仰』所収，岩波書店，昭和41年。）
・高尾正男「三谷隆正の信仰と思想」関西大学法学論集16（４・５・６），
1967年。
・田中収「三谷隆正の国家哲学」（名古屋経済大学）社会科学論集２，1967年。

・ 會津伸「三谷隆正の人格主義」おとづれ42, 1969年。
・ 小田丙午郎「De Civitate Deiの中のアウグステイヌスの歴史哲学について」（三谷隆正）奈良大学紀要1, 1972年。
・ 三代川潤四郎「三谷隆正教授の自然法思想：個人の尊厳と自我主義の問題を中心として」金沢法学18（１－２）, 1973年。
・ 辻誠「心身障碍児（者）における生の意味と教育:その実存分析的考察」（三谷隆正）（日本特殊教育学会）特殊教育学研究９－１, 1971年。
・ 大河原礼三「三谷隆正」（藤田若雄編『内村鑑三記念講演研究中間報告:敗戦の神義論－十五年戦争と無教会二代目』第２分冊, キリスト教社会思想研究会, 1975年。）
・ 阿部俊一「三谷隆正」（藤田若雄編『内村鑑三を継承した人々（下)』所収, 木鐸社, 1977年。）
・ 平林武雄「三谷隆正」白金通信150, 152, 1981年。
・ 家永三郎「（中央大学最終講義）私の学問の原点－1920年代から30年代にかけて」法学新報90巻11, 12号, 昭和59年（→平成11年,『家永三郎集・第16』所収, 岩波書店）
・ 和田博文「三谷隆正の思想」北海道哲学会報33, 1986年。
・ 量義治「三谷隆正」（同『無教会の展開－塚本虎二・三谷隆正・矢内原忠雄・関根正雄の歴史的考察他』所収, 新地書房, 1989年。）
・ 柳父圀近「宗教と国家…三谷隆正の政治思想」三田学会雑誌82（特別号２), 1990年。
・「文献目録；日本Ｖ」（三谷隆正）史學雑誌99－11, 1990年。
——柳父圀近「宗教と国家－三谷隆正の政治思想」三田学会雑誌82（特別号２), 1990年。
・ 武田清子「解説」（三谷隆正『幸福論』岩波文庫, 1992年。）
・ 半澤孝麿『近代日本のカトリシズム』（三谷隆正）（みすず書房, 1993年）
・ 柳父圀近「天皇制国家とキリスト教－三谷隆正の政治哲学」（東北大学法学会）法学58－４, 1994年。

・「文献目録；日本Ⅳ」（三谷隆正）史學雑誌104－8，1995年。
——柳父圀近「天皇制国家と基督教－三谷隆正の政治哲学」
（東北大学法学会）法学58－4，1994年。
・鵜沼裕子「三谷隆正：その思想と信仰に関する一考察（聖学院大学名誉学長・金井信一郎先生記念論文集）」聖学院大学論叢７－１，1995年。
・加藤恵司「三谷隆正の法思想：相生相活の法哲学を中心として（聖学院大学名誉学長・金井信一郎先生記念論文集）」聖学院大学論叢７－１，1995年。
・村松晋「三谷隆正における国家への視座…「愛」の自覚と『アウグスチヌス』をめぐって」日本史学集録21，1998年。
・「文献目録；日本Ⅴ」（三谷隆正）史學雑誌107－11，1998年。
——村松晋「三谷隆正における国家への視座－「愛」の自覚と『アウグスチヌス』をめぐって」日本史学集録21，1998年。
・村松晋「三谷隆正の実存的軌跡－精神の画期をめぐる一考察」（筑波大学大学院人文社会科学研究科）年報日本史叢1997，1998年。
・家永三郎「（昭和60年講演）教科書裁判の人類史的意義…教科書裁判二十周年を迎えて」（三谷隆正）『家永三郎集・第14』所収，平成10年，岩波書店）。
・澁谷浩「三谷隆正における個人と国家（聖学院大学創立10周年記念論文集）」聖学院大学論叢11－2，1999年。
・村松晋「三谷隆正の信仰と国家観」（大濱徹也編『近代日本の歴史的位相－国家・民族・文化』所収，刀水書房，1999年。
・村松晋『三谷隆正の研究』村松晋（筑波大学博士論文），甲第2221号，2000年。
・鵜沼裕子『近代キリスト者の信仰と理論』（「三谷隆正…その信仰と思想に関する一考察」）聖学院大学出版部，2000年。
・村松晋『三谷隆正の研究－信仰・国家・歴史』刀水書房，2001年。

・篠崎恭久「〈書評〉村松晋『三谷隆正の研究－信仰・国家・歴史』」史境 45，2002年。
・村松晋「近代日本における無教会キリスト者の天皇観について（第５部会）（〈特集〉第62回学術大会紀要）」（三谷隆正）宗教研究77－4，2004年。
・村松晋「近代日本の歴史意識をめぐる…考察・三谷隆正を事例として」東京家政学院筑波女子大学紀要８，2004年。
・鶴田一郎「三谷隆正の思想と行動…「信仰・学問・教育」に生きた生涯から」ホリスティック教育研究10，2007年。
・村松晋「三谷隆正の思想－他者への視座とその可能性をめぐって」聖学院大学総合研究所紀要40，2007年。
・村松晋「三谷隆正 信仰と学問」（南原繁研究会編『宗教は不要か－南原繁の信仰と思想』所収，to be 出版会，2007年。）
・鶴田一郎「PEO31三谷隆正と三人の師…内村鑑三・新渡戸稲造・岩元禎」日本教育心理学会総会発表論文集49，2007年。
・名古忠行「新島襄と岡山：日本におけるピュリタニズム受容の事例研究」（三谷隆正）（山陽學園大学）山陽論叢14，2007年。
・伊藤慶郎「日本正教会とロシア革命：府主教セルギイの動向を中心に（第４部会，〈特集〉第66回学術大会紀要）」（三谷隆正）宗教研究81－4，2008年。
・村松晋「近代日本の無教会キリスト者における歴史意識について（第４部会，〈特集〉第66回学術大会紀要）」（三谷隆正）宗教研究81－4，2008年。
・鶴田一郎「三谷隆正と三人の師…内村鑑三・新渡戸稲造・岩元禎」ホリスティック教育研究11，2008年。
・葛井義憲「服従の人、三谷隆正」（名古屋学院大学総合研究所研究年報 21，2008年。
・村松晋「教育者としての三谷隆正」キリスト教と諸学：論集24，2009年。

・葛井義憲「岡山時代の三谷隆正－自己中心と他者愛」（名古屋学院大学総合研究所）研究年報22，2009年。
・柴田真希都「知と信のあわい…哲人・三谷隆正における病と新生の言葉」超域文化科学紀要15，2010年。
・大庭治夫『オバマに至る世界的改革者群像：忘れ得ぬ日米欧クリスチャン精神史（後篇）』（三谷隆正）国際学術技術研究所，星雲社（発売），際研Bibl「精神史研究試論集」：新日本のための新日本精神史研究試論２，2010年。
・秋山智久「人間の苦悩と人生の意味…社会福祉学の根本問題」（三谷隆正）學苑844，2011年。
・山口周三『南原繁の生涯 信仰・思想・学問』（三谷隆正）教文館，2012年。